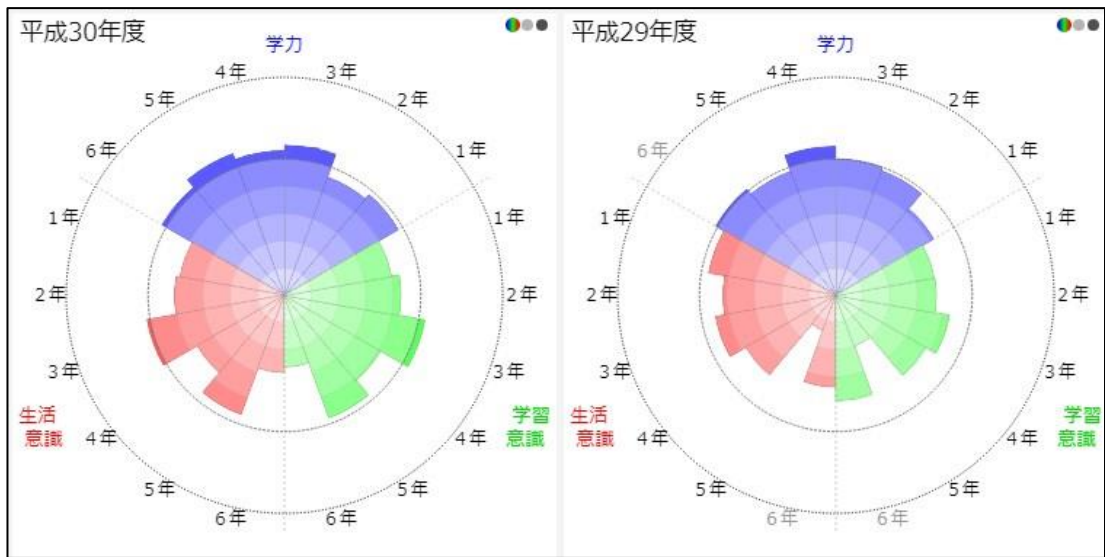


横浜市立豊岡小学校

令和元年度 学力向上アクションプラン

1 H30年度 横浜市学力・学習状況調査の結果から

(1) 学力の概要



学力面では、30年度3年生以上は横浜市の平均を上回る結果となっている。2年生は平均を下回ってはいるが、29年度と比較すると向上している。学習意識に関しては、3年生以外は市平均を下回る結果となっているが、全体として、向上しているといえる。生活意識では、1・2年生の低下が気になるところであり、家庭や地域との連携をさらに密にしていける必要性を感じる。

(2) 教科学習の状況

※ 平成30年度の本校の横浜市学力・学習状況調査の結果（教科別標準化得点）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	99.4	99.7	103.8	101.3	101.6	98.6
社会			101.6	100.3	102.3	100.4
算数	99.6	98.3	100.3	101.9	103.9	102.3
理科			100.1	99.9	98.2	100.1

※標準化得点…横浜市の平均を100として、本校の得点を見たもの

- 国語：概ね市平均だが、1・2年の「知識・理解・技能」、高学年の「書く」が低い傾向にある。
- 社会：3～6年のほとんどの観点で向上が見られる。地域関連や体験活動の成果と考えられる。
- 算数：ほとんどの観点で向上が見られる。校内重点研究として取り組んだ成果と考えられる。
- 理科：概ね市平均といえるが、3～5年生の「技能」が平均を下回り、6年は上回っている。

(3) 経年変化の状況

昨年の状況で気になる項目としてあげた「ノートをしていねいに工夫して書く」「自分の考えをを発表する」「授業がわかりやすい」「あいさつを自分からする」の項目に関しては、すべて向上した。算数を中心として全校で取り組んだ成果が上がっている。

「まちな行事に参加していますか」の項目は市平均を上回っているものの4年連続で低下していることも気になる。地域との関りを深めていきたい。



2 令和元年度の学力向上にかかわる研究テーマ

令和元年度 研究テーマ

一人ひとりの生き方を切り拓く学びの創造
～自ら問いをもち、自分の考えを進んで表現する子の育成～

(1) 学校組織としての共通取組

○算数科を核として

算数科を中心としながら、授業の中で子どもたち自らが問いやこだわりをもって、問題を追究していく子どもを育てる。そのために、子どもたちが自分の思いや考えを進んで伝え合い、表現できるような指導内容や活動を工夫する。

○学校と家庭・地域の連携を通して

家庭と連携して家庭学習の習慣化を図る。また、学校運営協議会に報告し、協議結果をフィードバックすることによって、まちとともにあゆむ学校づくりの具現化をはかる。

(2) 学年・教科等としての取組

算数科を核とした自ら問いをもち、自分の考えを進んで表現する子の育成

○1・2学年

子どもたちが夢中になって考えていく中で生まれる自分なりの考えを、楽しみながら伝えたり聞いたりしていく中で、学ぶ楽しさを味わえる子どもを育てる。

○3・4学年

子どもたちが課題に興味や疑問をもって考えていけるような問題との出会いを大切にしていく。友だちの考えとの違いやよさなどから考えていく問題解決的な学習を意識し、自分なりの考えをもち、いろいろな方法でわかりやすくその考えを表現したり、聞き合ったりすることを楽しめる子どもを育てる。

○5・6学年

子どもたちが自ら課題に気づいて考えていけるような問題との出会いを大切にしていく。自他の考えを出し合う中で生まれた疑問を大切にする問題解決的な学習を意識し、根拠をもって自分なりの考えを進んで表現したり、聞き合って互いの良さを見つけたりすることでお互いに高め合おうとする子を育てる。

○個別支援学級

生活の中の数学的なものとのかかわりを大切にしていくことで、子どもたちの必要感を高め、自分の思いを伝えたいという意欲をもてるようにする。